

ざっくばらん

出席者のトークを通じてさまざまな話題を身近に感じていただくNCNの討論番組「ざっくばらん」。今回は、「NPOの今とこれから」がテーマです。活動の幅が広がり、地域に欠かせない役割を担う団体も増える中、抱える課題や今後の展望について意見を伺います。

自分のやりたいことを 若者と地域つなぐ活動 子どもの主体性生かす

麻田氏
原田氏
西村氏

麻田 雄一氏 原田 大介氏 西村 早栄子氏



活動の三つがあります。西村 子どもたちが森で生活するユニークな幼稚園です。智頭町の森林資源を使い、毎日14カ所のフィールドから子どもたちが選んで過ごしています。

■NPOの現状は

麻田 正職員やパートなど約20人います。自分のやりたいことを持ち寄って活動しています。農業振興や音楽イベント、福祉施設に対する評価など、活動はあり過ぎて説明できないくらい。

山田 収入には補助金や会費、事業収入などがあります。麻田 未来ワオークはほとんどが民間企業からの協賛金、琴桜記念館は行政からの収入など、事業ごとに財源が違います。行政や企業ができないことに飛び込んでビジネスモデルをつくるのが、NPOの社会的な役割の一つなのではないでしょうか。

西村 うちの半分以上が自治体の補助金で、半分弱が保育料などの自主財源です。子どもの主体性を生かした活動をしように思うと、学校法人などでは国の基準に合わない部分も出てきます。

山田 夢や展望について語っていただけませんか。中島 まずは多くの人に劇場に足を運んでもらいたい。演劇の良さを知ってもらいたい。鳥取に芸術系の大学ができて、いろんなアーティストが生活するようになるというですね。高齢者がお金を使いたくなるような工夫として、地元の民芸や食を生かしたコンドミニアム形式のホテルをつくらうという話も出ています。麻田 滞在型のウォークインホテルで健康の知識や手法を身に付けたり、地元の人との交流などができたら。個人的には、一人一人が主体的に自分の生活を選んで暮らしているという社会が理想。鳥取に主体的に暮らしている人が増えたらいいですね。原田 若者に鳥取でもチャレンジできることを知ってもらいたい。若者にとって楽しい鳥取をつくってあげたいと思っています。西村 ちょっと田舎に行けば、森のようちえんと普通の幼稚園が併設されていて、どちらか選べるようになってきているような社会になるとすてきですね。日本初の森のようちえん付属小学校ができたらしいな、と思います。それと、公務員は地域への思いが強い人が多い、NPOの人材として適していると思います。ボランティア休暇のように、「NPO休暇」ができればいいですね。

地域づくりの方向性不す

場のような場所で演劇をする場合には法人が必要と考え、NPOを選びました。最近障害がある人のアートの可能性にも注目を注いでいます。麻田 「未来ワオーク」を通じてまちづくりに取り組んでいます。年一回のイベントだけでなく、年間を通して歩く仕掛けや観光と組み合わせた「ウォークツアーリズム」などを地域の個性にしていきたい。温泉などの既存の観光資源を生かし、県外の人にも健康に関する知識

を学んで日常に取り入れてもらうようなモデルをつくりたいです。原田 ボランティアコーディネーターとして、若者と地域のつなぐ活動をしています。若者

めて新しい何かをつくっていく

の活動支援、地域の抱える課題の解決支援、若者と地域をつなぐ活動をしています。若者めて新しい何かをつくっていく

■資金確保が課題

岩崎 資金については、どうしても行政からの委託補助に頼る形になっているのが実情。また、後継者育成や事業規模拡大をしようと思っても、人材がないという問題もあります。生活するだけの収入が得られず、企業に就職せざるを得ない人もいます。

中島 資金の問題は難しい。市場万能型の社会から、ほれ落ちたニーズを拾ってNPOの活動に対してどのように価値付けするかという問題があります。活動の対価が社会的に共有されてないから収入につながらないし、NPO側にも「こんなにもらっていいのかわからない」という「申し訳なさ」のようなものがあるのも問題です。

原田 たとえば結婚を考えたときに、家族を養う収入が得ら

れない。うちは委託事業が8割ですが、委託だけで食べていくというのは無理があります。山田 皆さんの話から、NPOには多様な活動があり、従来の市場原理と違う部分で人と人がつながりながら豊かに生きようとしているという共通点を感じました。NPOは新しい地域づくりのひとつの方向性を示しているのではないのでしょうか。



山田 修平氏 岩崎 林太郎氏 中島 諒人氏

人と人のつながり大切 自分の価値を見いだす 障害者のアートに注目

山田氏
岩崎氏
中島氏

出席者

- 山田 修平氏 (司会)
鳥取短期大学理事長・学長
- 岩崎 林太郎氏
鳥取県鳥取力創造課長
- 中島 諒人氏
NPO法人鳥の劇場代表
- 麻田 雄一氏
NPO法人未来事務局長
- 原田 大介氏
NPO法人学生人材バンク職員
- 西村 早栄子氏
NPO法人智頭町森のようちえんまるたんぼう代表

■独自性あふれる活動
山田 そもそもNPOとはどのような組織でしょうか。岩崎 広い意味では法人格がある、ないにかかわらず、自発的に社会に貢献する民間の非営利の団体と捉えています。県内には229団体(11月末時点)あり、近年順調に増えています。その中で、いかに継続していかかが課題になっています。山田 活動を紹介していただき。中島 鳥取市鹿野町を拠点に、演劇の魅力を知ってもらう活動を中心に取り組んでいます。ヨーロッパのように街の広

場のような場所で演劇をする場合には法人が必要と考え、NPOを選びました。最近障害がある人のアートの可能性にも注目を注いでいます。麻田 「未来ワオーク」を通じてまちづくりに取り組んでいます。年一回のイベントだけでなく、年間を通して歩く仕掛けや観光と組み合わせた「ウォークツアーリズム」などを地域の個性にしていきたい。温泉などの既存の観光資源を生かし、県外の人にも健康に関する知識

を学んで日常に取り入れてもらうようなモデルをつくりたいです。原田 ボランティアコーディネーターとして、若者と地域のつなぐ活動をしています。若者

めて新しい何かをつくっていく

の活動支援、地域の抱える課題の解決支援、若者と地域をつなぐ活動をしています。若者めて新しい何かをつくっていく

■資金確保が課題

岩崎 資金については、どうしても行政からの委託補助に頼る形になっているのが実情。また、後継者育成や事業規模拡大をしようと思っても、人材がないという問題もあります。生活するだけの収入が得られず、企業に就職せざるを得ない人もいます。

中島 資金の問題は難しい。市場万能型の社会から、ほれ落ちたニーズを拾ってNPOの活動に対してどのように価値付けするかという問題があります。活動の対価が社会的に共有されてないから収入につながらないし、NPO側にも「こんなにもらっていいのかわからない」という「申し訳なさ」のようなものがあるのも問題です。

原田 たとえば結婚を考えたときに、家族を養う収入が得ら